

# 数 学 科

報告者：武井 文音

## 1 課 題

数学における読解力とは、式やグラフ、図など数学的な表現を解釈する力と、自分の考えを式やグラフ、図を用いて数学的に表現する力の2つの力を合わせたものである。本校生徒は数学における読解力が低い生徒の割合が高い。数学に対して苦手意識を持っている生徒が多く、数学を学ぶ意味や有用性を感じられていないことが原因であると考えた。

## 2 目 標

まず、数学を学ぶ意味や有用性を伝えていくことである。数学が役立つ、面白いと感じることで数学に対するモチベーションが上がり、数学に前向きに取り組むことで読解力の向上にもつながると考える。

次に、既習事項を用いて自分の考えを他者に分かりやすく伝える力を身に付けさせることである。既習事項を用いて数学的に表現する力を身に付けることによって、新出問題にも応用することができる読解力向上につなげていく。

## 3 具体的方策

まずは日々の授業において数学がどのような場面で使われているか紹介したり、実際に習ったことを活用したりする活動を取り入れていく。それと並行して、問題演習の際には生徒への前向きな声掛けや褒めることを意識して行う。

また、ペアワークやグループワーク、発表の機会を多く取り入れる。自分の考えを伝える、他者の考えを聞くことで、分かりやすく伝えるとはどのようなことか学んでいく。具体的には1年生の2学期に、2次不等式の解き方についてグループで考えをまとめ、グラフを用いて全体に発表する機会を取り入れる。

## 4 結 果

多くの生徒が日々の授業や活動に前向きに取り組む姿が見られた。授業アンケートを行った結果、難しい問題に取り組むことが楽しかった、習ったことが実際に使えることが分かったとの意見が得られた。定期考査で読解力を図る問題を出すことはできなかったが、読解力を意識した授業を行ったクラスは全て定期考査の平均点が10点～20点上がっており、数学の基礎力は向上したと考えている。

## 5 次年度に向けての課題

読解力を意識した授業を考えることで、講義形式で知識を与える授業だけでなく、数学の面白さや学ぶ意味を伝える授業や、生徒の活動を意識した授業を行うことができた。今後は更に数学に関する知識を深め、より魅力的な授業を行う力を身に付けていかなければならない。また、読解力の向上をどのように図っていくかが今後の課題である。研究部としての活動を通して他の教科の取り組みについても知ることができた。今後も研究部員の先生方と積極的に情報共有し生徒の読解力向上に努めていく。